

別紙 会議録(第1回酒田市食育・地産地消推計画立案部会)

1. 報 告

資料1に基づき、7月に実施したアンケート調査の概要と結果を事務局(酒田市農政課)より説明。

2. 協 議

資料2に基づき、次期酒田市食育・地産地消推進計画の骨子案(現状・課題、施策の柱の重点課題)を農政課より説明。

結 果

部会員等から意見のあった内容をもとに事務局で骨子案を修正し、修正したものを後日メール等で部会員や関係各課へ送付する。アンケート結果は新計画に掲載する。ただし、アンケート結果の年代毎のクロス集計については、次期計画にどこまで反映し、掲載するかは事務局で持ち帰り検討する。

協議内容

1. 食育・地産地消に関する現状と課題(資料2)

【山形県漁業協同組合】

・現状③(新型コロナウイルスの影響により、家計に占める食への支出を節約するようになった市民の割合は66.5%を占めており、子どもたちへ食事環境の低下が懸念される。)について、新型コロナウイルスの影響で子どもたちの食事環境の低下につながるとなぜ言えるのか。

→(部会長)アンケートで、家計に占める食への支出を節約するようになったと答えた全ての家庭にあてはまるものではなく、子どもがいる家庭を想定した場合、食事環境の低下につながっている可能性があることが心配されるという意味である。

→(農政課)あまり飛躍しないよう表現に注意する。

2. 食育・地産地消推進のための施策の柱(資料2)

【酒田市小学校長会】

・(2)②(プロスポーツ組織と連携した子ども達の食への興味関心を醸成する。)は、若い世代の食を見直すことにつながるため、(1)食を楽しみ、食から健康をつくるの中に位置づけた方がいいのではないかと。
・(3)②(幼児期からの農林漁業体験や調理体験などの食農教育を推進する。)の農業体験については、農業の苦勞を全面に出して伝えると、子どもたちは農業を嫌煙してしまう。むしろ、農業のかつこよさやスマートさの魅力を伝えた方が持続可能な農業につながる。

【庄内みどり農業協同組合】

・(4)②(学校と食品関連事業者等との連携による商品開発を推進する。)に関連して、光陵高校の生徒が庄内みどり農協青年部やすくすくあぐりネットの協力を得て、ミライニのホールでマルシェをしている。こういった取組みは酒田市含め全体で支援したい。

【山形県漁業協同組合】

・(2)①(学校給食における地場産食材の利用拡大や交流給食を推進する。)の学校給食の地場産食材の利用拡大については、量・価格の面で全校一斉に取り組むのは難しいが、各校分散して取り組んでいって、トータルで少しずつ全体に広がっていけばいいと思う。

【酒田市袖浦農業協同組合】

- ・いつ、だれが、どのように取り組むのかを具体的に計画書に示した方がいいのではないか。
→(部会長)数値目標の設定で見えてくるかもしれない。
- ・学校給食について、1か月、2か月前に食材を何が提供できるか言われ、そのときになり、気候の関係で提供が難しいときがあった。
→(部会長)自然を相手にしている産業のため、予定の立て方を今後考えていく必要がある。

【酒田市食生活改善推進協議会】

- ・(2)①(学校給食における地場産食材の利用拡大や交流給食を推進する。)の学校給食における地場産食材の利用拡大は、以前からの課題だがなかなか実現できていない。計画に掲げるのはいいが、どのように実現していくかが課題。
- ・(4)②(学校と食品関連事業者等との連携による商品開発を推進する。)について、農林水産まつりの米粉レシピコンクールの審査員を務めてきた。光陵高校や南高校の生徒のレシピが多く、素晴らしいアイデアがたくさんあったので、商品化が実現するのではないかと思った。

【酒田市企画調整課】

- ・アンケートについて、全般的にクロス集計で年代毎にさらに細かく集計すると、今後市として何をしていくかが明確化しやすい。

【酒田市農業委員会事務局】

- ・だれが、どのように取り組むのかを明確化した方がいい。

【酒田市子育て支援課】

- ・園と食育・地産地消について、子どもたちへの食育の発信はできるが、子どもたちから保護者までいっていない。地産地消については、今まで食材を提供してくれた人が高齢化により提供が難しく、保育園では地産地消についてデータ化していない。どこと協議して協力しながら、園で地産地消を推進していくか体制づくりが必要。

【酒田市健康課】

- ・(4)食でつながり、食を発信するについて、食の発信で何を求めているかが経済状況など時期によって変化するため、求めている側とのつながりも必要。インターネットを活用したアンケートや SNS などで市民の声を吸収する必要がある。発信を行いつつ、声を吸収することも大切。

【酒田市企画管理課】

- ・(2)①(学校給食における地場産食材の利用拡大や交流給食を推進する。)について、昨年度の学校給食の地場産食材の利用率(重量ベース)は、小学校で74.4%、中学校で68.2%。米はほぼ100%だが、おかずは安定供給の品目が少ない。利用率の向上は現場サイドでは限界である。その時季にある地場産食材は優先的に取り入れているが、利用率を伸ばすのは難しい。食育の面では、毎月19日(食育の日)に献立に郷土料理や旬の食材を取り入れて、それについてのプリントを全校配布して各家庭に届けている。

【酒田市社会教育文化課】

- ・調査票にも回答したが、食育・地産地消を推進する上で、幼少期からの味覚を育てることも視点を当てた

方がいい。酒田市は食材に恵まれているし、郷土愛にもつながるので、学校や家庭で味覚を育てる場面を多く作っていただければいいと思う。

【酒田市農政課】

- ・各部会員等から意見のあった内容をもとに事務局で骨子案を修正し、メール等で部会員や関係各課へ送付する。
- ・アンケートの結果を次期計画にのせる。アンケート結果のクロス集計については、次期計画にどこまで反映、掲載するかを事務局で検討する。
- ・いつ、だれが、どのようにするかを明確化した方がいいという意見があったが、現計画では「5 具体的な施策」でだれが、どのように取り組むか記載されている。具体的な施策は新計画でも同様に掲載するが、いつ取り組むかについては、実行する上での弾力性を損なわないようにするため、今後5年間の計画の中でという扱いとする。

3. 連 絡

資料3に基づき、事務局から以下のとおり説明。

- ・次回の部会は11月上旬の予定。そのため、次回の部会までに計画案を事務局で作成する。作成にあたっては、後日関係各課へ依頼文書をメールで送付し、計画案の見え消し修正等の作業をお願いするので、農政課へ報告いただきたい。

4. その他

特になし

以上

別紙 会議録(第1回酒田市6次産業化戦略策定部会)

1. 報 告

資料1に基づき、7月に実施したアンケート調査の概要と結果を事務局(酒田市農政課)より説明。

※回答結果は、6次産業化に関する質問(問24、26、27、28)のみ説明。

2. 協 議

資料2に基づき、酒田市6次産業化戦略の骨子案(現状・課題、取組方針)を事務局より説明。

結 果

部会員等から意見のあった内容をもとに事務局で骨子案を修正し、修正したものを後日メール等で部会員や関係各課へ送付する。

協議内容

1. 6次産業化に関する現状と課題(資料2)

→意見なし

2. 現状と課題を踏まえた6次産業化の取組方針(資料2)

【庄内みどり農業協同組合】

・⑥の最重点品目(5品目)はすでにブランド化されているので、商品開発の品目とブランド化の品目を分けた方がいい。商品開発を最重点品目、ブランド化を重点品目といったように。

【酒田商工会議所】

・取組方針の最重点5品目については、酒田市民はすでに満足感を持っていて、おとなしい性格もあり、外部に発信しようとしていないのではないかと。そのため、今後はSNSやネット販売に力を入れて発信が必要。

【酒田市袖浦農業協同組合】

・加工は、好きな人でないと続かない。好きな人へ補助などで支援する仕組みが必要。

【山形県漁業協同組合】

・ネット販売はいいことだけではなく、クレーム対応や伝票処理などが大変。講習会やセミナーなど、教育的な支援が必要。

→(部会長)気軽にすぐ相談できるような窓口があると、始めようという意欲につながる。

【酒田市商工港湾課】

・サンロクでつなぐプロジェクト支援補助金がある。EC事業に乗り出そうとしている事業者もいるので、つなぐプロジェクト支援補助金などを有効活用してもらい、ネット販売の促進を図ってほしい。

【酒田市農業委員会事務局】

・農業委員会事務局では、農地の斡旋はしているが販売の支援まではしていないので、セミナーやネット販売の勉強会などにより情報共有やつながりがもてる機会があるといいと思った。

【酒田市企画調整課】

- ・一生懸命な生産者ほど忙しくて6次産業化までは手が回らない。先ほどサンロクから話のあった内容で、サンロクでつないでいくのは生産者の所得向上に直結するので非常に大事な取り組みである。

【酒田市子育て支援課】

- ・マッチング支援が一番重要。加工する人、アイデアのある人、食材を供給する人のマッチングなど。

【酒田市企画管理課】

- ・イカの加工業者とやりとりして学校給食でイカのハンバーグを提供したところ、好評だった。提供できた理由として、業者側ですでにサンプルができていたこと、価格が通常のハンバーグと同程度であったこと、流通業者(間に入って配達する)に卸して提供が可能だったため。

【酒田市健康課】

- ・6次産業化のメリットやリスクがもっとわかりやすいといいし、モデルケースや事例が増えていくとさまざまな商品に波及していくのではないかと思う。

【酒田市農政課】

- ・各部会員等から意見のあった内容をもとに事務局で骨子案を修正し、部会員や関係各課に送付する。

3. 連 絡

資料3に基づき、事務局から以下のとおり説明。

- ・次回の部会は11月上旬の予定。そのため、次回の部会までに計画案を事務局で作成する。作成にあたっては、後日関係各課へ依頼文書をメールで送付し、計画案の見え直し修正等の作業をお願いするので、農政課へ報告いただきたい。

4. その他

事務局より以下のとおり説明。

- ・6次産業化については、特に商工港湾課(サンロク)との関わりが強いことから、農政課と連携して計画案を作成する。
- ・部会の会議録を送付する。

以上